

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

新目白通り－2



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」、「葛西橋通り」、「中野通り」、「平和橋通り」、「大久保通り」、「蔵前橋通り」、「道灌山通り」、「川の手通り」、「自由通り」、「丸八通り」と歩いてきました。

今回は「新目白通り」を歩いています。新目白通りは文京関口の目白通りの江戸川橋交差点を起点に、新宿区西落合一丁目交差点に至る延長約5kmの道です。写真右上は新目白通りの道路名標識（都道8号線）です。道路名は目白通りのバイパス（新しい道）として付けられました。

前回は起点から高戸橋交差点まで歩きました。今回は高戸橋交差点から終点まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[高戸橋交差点] 新宿区西早稲田三丁目

最寄駅 都電荒川線 面影橋駅

高戸橋交差点で明治通り（都道 305 号線）と交差します。左へ行くと新宿方面、右へ行くと池袋方面です。並行して走って来た都電荒川線も右折して桜の名所の神田川を渡り（写真下右）、次の駅の学習院下駅へ向かいます。



〔高田橋〕 新宿区高田馬場二丁目

最寄駅 都電荒川線 面影橋駅

新目白通りは直進して神田川（写真下右）に架かる高田橋（写真下左）を渡ります。



J R 山手線・埼京線のガード（写真下左）をくぐり進みます。



新目白通りの左横を西武新宿線（写真上右）が走ります。西武新宿線は新宿区西武新宿駅と埼玉県本川越駅を結ぶ西武鉄道の路線です。

[氷川神社] 新宿区下落合二丁目 最寄駅 西武新宿線 下落合駅

右側に氷川神社の鳥居（写真下左）が見えますので社殿（写真下右）にお参りしました。境内の説明板には『創建は今より二千四百年前、第五代孝昭天皇の御代とも、また更に上古と云われ詳らかではありませんが、蛍の名所として有名だった落合の郷、神田川の守り神として古くから信仰されてきました。豊島区高田氷川神社と夫婦の社と云い伝えられ、江戸期の文献には将軍家の御狩場「御留山」の山裾に広い境内を有していた様子が描かれています。太平洋戦争の戦火にあいましたが、昭和26年現在の社殿が再建されました』と記載。



氷川神社の前に「東京富士大学」(写真下左)がありました。東京富士大学は1943年（昭和18年）東亜学院として創立、2002年（平成14年）大学設置とのことです。新目白通りの脇は神田川、妙正寺川、西武新宿線が並行しています（写真下右）。



「落合」は妙正寺川と神田川の合流点がこの付近にあることに由来する地域名称で駅名にも採用されています。また中世に下野国を根拠地とした武家 落合氏の落合領からの由來說。さらに東海から関東地方では川や道が合流することを「落合」と呼ばれることが多いからとの諸説があります。

[下落合駅前交差点] 新宿区下落合四丁目

最寄駅 西武新宿線 下落合駅



下落合駅前交差点（写真左）を左へ行き妙正寺川にかかる落合橋を渡ると西武新宿線下落合駅です。その先には落合水再生センター、落合中央公園があり脇を神田川が流れています。

[中落合二丁目交差点] 新宿区中落合二丁目

最寄駅 西武新宿線 下落合駅

中落合二丁目交差点（写真下右）で山手通り（都道 317 号線）と交差します。左へ行くと東中野方面、右へ行くと板橋方面です。新目白通りは直進します。



[西落合一丁目交差点] 新宿区西落合一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 落合南長崎駅

西落合一丁目交差点（写真下右）が新目白通りの終点です。目白通り（都道 8 号線）は右の目白方面から来て右折、左は新青梅街道（都道 440 号線）の起点となります。



これにて新目白通りを起点から終点まで歩きました。水や道の合流する「落合」の地が理解できた道でした。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩379 令和3年10月から掲載済です。

今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中で会いするのを楽しみにしています。

2023年8月8日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年11月1日掛川宿（現在の静岡県掛川市）（江戸日本橋から220km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。



写真左は「掛川 秋葉山遠望」です。掛川宿手前の塩井川にかかる橋を描いています。右奥の秋葉山山頂に秋葉神社があり、火除けの神が祀られています。掛川名物の遠州凧が画面からはみ出す高さに描かれています。

掛川宿の名物うまいものは葛湯（写真下左）と梅衣（写真下右）です。掛川近辺は古くから、奈良の吉野と並ぶ葛の生産地です。梅衣は餡でぎゅうひを包み、シソの葉でくるんだ和菓子です



毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2 kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝

